

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

I. はじめに

本報告書では、はじめに私が日米協会で行った学び舎やベーコンフェスティバルの概要について紹介し、その経験から得た姉妹都市関係への提案について述べる。さらに小学校でのボランティアについてその概要と参加した感想を含め、一年間の留学についてまとめる。

II. 日米協会におけるボランティア活動について

(1) 学び舎について

私は主に、日米協会が主催する学び舎において、ボランティア活動に参加していました。日米協会が主催する学び舎では、毎週金曜日に3時間ほど日本語教室のサポートスタッフとして参加しました。参加している生徒たちは5歳から18歳で、親族に日本人がいる生徒や全くの初心者の生徒など、国籍も多様でした。具体的に学び舎では、日本語の文法だけでなく、お正月の餅つきや節分、立春・立冬など細かい日本文化などについてもイベントや授業を通して学んでいました。授業に参加していると、日本人の私でも知らない様なことについて学ぶことができ、とても勉強になりました。また、生徒の日本語読解力のレベルにばらつきがあり、ひらがなを読むのが精一杯の生徒や日常会話レベルであれば会話ができる生徒などが同じ授業を受けていました。そのため、上級レベルの生徒には物足りなく、初級者は全く理解できない、そんな状況が続いていました。そこで私は、生徒の授業をレベルごとに分けることを提案しました。その後、学び舎スタッフと何度もミーティングを重ね、実現することができました。その結果、初級レベルの生徒は自分たちのペースで学ぶことができ、上級者レベルの生徒はスタッフとの会話の中で実践的な日本語を学ぶことができました。生徒たちの成長を目で見て実感することができ、とても嬉しかったです。特に、今まで授業への参加意欲がなかった生徒が、日本語の歌を歌い出した時にはとても驚きました。子供たちには日本語を教えるだけでなく、英語を教えてもらうこともあり、日本ではできない貴重な経験をすることができました。

(2) ブルーベーコンフェスティバルについて

また、私はデモイン市で開催されたブルーベーコンフェスティバルにボランティアスタッフとして参加しました。私は山梨県庁からの学生ボランティアスタッフと一緒に、日本ブースを設立し日本料理や日本茶・日本酒・山梨産のワインなどの販売を行いました。最終的に、日本酒やワインは完売することができました。私の英語力はあまり高くないのですが、多くの人が耳を傾けてくれたおかげで、山梨県や姉妹都市関係についても紹介することができました。私のつたない英語でもコミュニケーションを取ることができ、自分の成長を感じました。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

Ⅲ. プレスクールでのボランティアについて

さらに私はプレススクールという、小学校と幼稚園の合併したような施設でのボランティアも行いました。そのプレススクールには英語を母国語としない子供たちが通う小学校でした。私は主に英語学習のサポートや日本文化の紹介などを行うために、プレススクールに毎週5時間程行いました。プレススクールで子供たちは絵本を使った音読で英語を学んでいました。小学三年生までの子供たちは読んでほしい絵本を選び、スタッフに読み聞かせをしてもらいます。子供たちは絵本の絵を通して英単語の意味を理解することができ、単語での会話ができるようになります。高学年の子供になると、今度は子供たちが選んだ本をスタッフに読み聞かせてくれます。実際に声に出すことで、発音やアクセントなどをスタッフと一緒に確認することができます。はじめ私は、自分自身の英語にすら自信がない状況で、子供たちに英語を教えることは難しいと考えていたのですが、「アクセントや文法の間違ひはユニークで素敵な個性の一つだよ。」と子供に教えてもらってから、自分に自信がつき子供たちとも積極的にかかわることができました。この学習方法は英語を学んでいるという意識ではなく、読み聞かせや絵本の内容を楽しみながら英語を学ぶことができるので、集中力が続きとても効果的でした。具体的には、一年生のクラスにインドネシアからの新入生が転校してきた際に、初めはクラスに東南アジア出身の生徒がおらず、英語もほとんど話すことができなかったため、他の子供たちと交流をすることもできず、クラスでも孤立していました。しかし絵本を使った英語学習を始めるうちに、単語を覚えて行き、一か月経過する頃には、クラスにも馴染み他の生徒とコミュニケーションをとることができるようになっていました。ボランティアの最終日には子供たちから「明日も絶対来てね」と言ってもらい、アメリカならではのハグもしてもらうことができました。勇気を出して参加してよかったと心から思いました。

Ⅳ. 提案

私は甲府市で行われたベーコンフェスティバルでは、ベーコンクイーンコンテストに参加し、2019年度のベーコンクイーンに選ばれました。これを機会に私はアイオワ州と山梨県の姉妹都市関係の活性化についてさらに興味が湧きました。特に私は、山梨県からアイオワ州への交換留学生は毎年いるが、アイオワ州から山梨県への交換留学生はほとんどいないということです。実際に私が通っていたコミュニティカレッジには、日本語を勉強している学生が数名おり、その中にも日本に留学したいと考えている学生もいました。しかし、自分で大学を選んだりすることや費用を考えると、挑戦することができないという状況が多くあり、実際に留学に挑戦した友人はいませんでした。私が通っていたコミュニティカレッジは山梨県立大学と協定を結んでおり、交換留学生を募集してい

山梨県若者海外留学体験人材育成事業(大学生等コース) 留学結果報告書

ました。留学担当の先生によると、日本語が難しいというイメージや山梨県がどのようなところかわからないという理由から、日本に行きたい留学生が集まらないと言っていました。そこで私は、大学にて日本人留学生による留学説明会を提案したいです。昨年度においても、山梨県からは短期留学なども合わせて数名の日本人留学生がアイオワ州に留学しています。「観光」ではなく、一年間「移住」するため、実際に山梨県に暮らしている学生が伝える方がわかりやすいと思います。さらにアメリカの高等学校や中学校では第二外国語として日本語を履修している学生も多くいます。そのため大学や短期大学等での説明会には集客が見込めると思います。私はアイオワ州に一年間留学したことで、ロサンゼルスやニューヨークなどの都市部では味わえない、人の温かさを感じる留学生活を送れたと思います。私は、私の友人や日本語に興味のある学生に、同じような経験をしてほしいと考えています。現在ある交換留学制度などをより多くの人に知ってもらうためにはアイオワ州での説明会だけでなく、山梨県からアイオワ州へのアプローチが必要だと感じました。

V. 終わりに

私はアイオワ州に留学して初めて、在米日本人の方々が、母国を思い日本の年明けとともに除夜の鐘を打っているということを知りました。このように日本で暮らしている人でも姉妹都市について知らないことが多く、今後はより多くの人に知ってもらえるような活動にも参加していきたいと考えています。

VI. 感想

留学生活では、報告書で述べたほかにも、様々な活動に参加してきました。アイオワ州に着くまでは、英語が話せるか・コミュニケーションが取れるか不安だったのですが、実際に行ってみると話さなければならぬ状況に自分を置くことで、自然と実践的な英語を身につけることができるようになった気がします。難しい英語はまだわかりませんが、簡単な単語を使って必死に思いを伝えることはできるようになりました。私は来年から山梨県の民間企業に就職しますが、海外に出たり海外から来た人たちと関わる機会があるので、これからも実践的な英語を生かしていきたいです。

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

VII. 活動の様子



写真 1 プレスクールにて読み聞かせをする様子



写真 2 プレスクールにてあやとりを教える様子

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書



写真 3 プレスクール内に設置した日本文化ブース



写真 4 デモイン市で行われたブルーベリーコンフェスティバルの様子

山梨県若者海外留学体験人材育成事業（大学生等コース）留学結果報告書

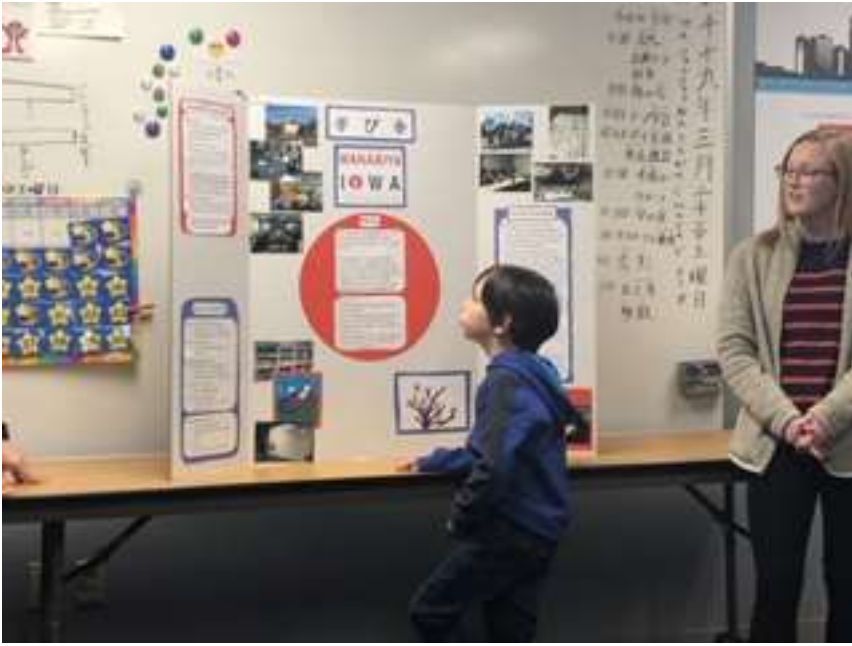


写真 5 学び舎の通常授業の様子